

令和5年度 学校自己・関係者評価システムシート（私立栄東中学校）

目指す学校像 建学の精神「人間是宝」、校訓「今日学ぶ」のもと、豊かな人間形成を図り、社会に寄与する人間の育成を積極的に推進する。また、生徒一人ひとりの充実した学校生活と進路希望実現を目指し、生徒、保護者の期待に応える進路指導の在り方を実践する。

- 重点目標
1. 平素の授業を大切にしてい意欲的に学習に取り組む姿勢を育むとともに、学力の向上および将来の進路希望を実現させるための進路プログラムの充実を図る。
 2. 横断的な学習を通して、問題発見力や課題解決力、論理的思考力を培う。
 3. 部活動や学校行事等を通して、個性を尊重し合う心と、さまざまな問題を深く捉えていく態度を育てる。
 4. 本校の教育活動を生徒、保護者および、受験志願者、地域住民に対し、幅広く広報し、情報提供を行う。

*重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
*番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者 7名

学校自己評価							
年度目標			年度評価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を重視した教育を徹底し、言語能力や論理的思考力を養う。 各教員が自己の専門知識を磨き、生徒たちの自発的・協働的な学びの姿勢の促進に務めている。 教科横断的授業を展開し、多角的な視野を育んでいる。 ICT教育の充実を図っている。 将来の職業までも見据えた進路指導を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と実践力の向上 学習指導計画に基づく教科指導 教員の資質向上 主体的、協働的な学習意欲の高揚 教科・科目横断的な授業展開 ICT教育への対応 的確な進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領及びスクールミッション、スクールポリシーの理解と実践 授業および継続学習のさらなる充実 主体的、協働的な学習意欲の向上 教員の教科指導力向上 学年会の実施 進路指導会議の充実 進路指導プログラム、進路ガイダンスの実施 二者、三者面談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導の工夫、改善により、生徒の学習意欲を高め基礎学力の定着や実践力が向上したか。 組織的な進路指導を機能させ、生徒が将来像を描く機会を提供できたか。 ICTを活用した教育活動に成果が見られたか。 生徒、保護者、社会のニーズを細やかに捉え、教育活動に還元できたか。 教員の教科指導力向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境を活用し、確認テストの実施など基礎学力の定着を図るとともに、授業外での生徒への学習方法や課題の提示を円滑に行い、時代に即した学習指導ができた。 放課後自習室、実力練成講座、内部進学特別講座など、生徒の学習意欲を引き出せるような機会を提供した。 外部機関と連携し、一般企業での勤務者や東大卒の講師の話聞くなど、進路指導がより充実したものになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題探究技能の育成に早期から取り組むことで、生徒の問題解決能力を育成する。 教材研究をより高め、教科間の連携をより深め、教科横断的な授業のさらなる拡大を心がける。 探究活動のさらなる充実や、外部の競技会等への参加促進、生徒の意欲向上につながる取り組みの継続。成績下位生徒へのフォローアップなど、学年や教科を越えての対応を進める。
2	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングを通して問題発見力・課題解決力を養成し、グループ討議、発表等を実施している。 生徒の主体性を引き出し、またさらなる意識の高揚を図る。 修学旅行や語学研修を通して、国際理解教育を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種プログラムの成果 生徒の意欲的な取り組み状況と成果 校外学習や修学旅行の発表等の取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> 問題や課題の解決に至るプロセスを思考させる。 研究活動の充実 生徒の豊かな発想を引き出すための助言指導 校外学習や修学旅行の事前研究や事後の発表等の計画の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力あるプログラムとなっていたか。 生徒が主体的かつ意欲的に取り組んだか。 校外学習や修学旅行のレポート内容が充実したものであったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に合わせた魅力のある充実したプログラムを実施し、生徒も主体的、意欲的に参加していた。 学年が上がるごとに生徒の取り組みや作品内容の質も向上している。 事前学習から当日、事後発表への流れがうまくつながっていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 従来からの活動に更なる主体性をもたせ、探究的要素を引き出すより魅力あるプログラムの作成に努める。 学校行事との兼ね合いも含めた年間を通じての長期的な指導計画、指導内容の作成と共有。 大学進学につながる個人規模のアクティブラーニング活動への支援。
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を通して、豊かな人間形成を図り、心身の健全な育成に努めている。 公共の場でのマナーや他者への思いやりや気遣いの心が持てるように継続的指導を徹底させる。 給食を通して、食に対する正しい知識と食への理解の育成に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事への取り組み状況 部活動参加状況 公共マナーの状況 道徳教育の充実 給食指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭、体育祭等の学校行事の充実 部活動への参加奨励 生徒集会等における公共マナーの指導や講話による啓発 「考える道徳」の実践 食育指導の充実による偏食の改善、食に対する意識づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事に積極的かつ意欲的に取り組めたか。 マナーを身につけ節度ある行動がとれたか。 多様な価値観があることを理解し、道徳的価値について考えることができたか。 給食を通して正しい食習慣が身についたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭・体育祭等の学校行事や部活動に各自の役割をもって積極的に参加し、周りや協力する生徒が多く見られた。 能登半島地震に対する募金活動に多くの生徒が協力し、助け合いの精神が育まれている。 登下校マナーについて全校集会を実施し、生徒に現状と課題を伝えたことで状況の改善が見られたが、継続して指導をしていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き公共マナーや給食指導についてこまやかに指導していく。 各教員が課題意識をもち、学校全体として統一的な指導を目指す。 学校外での地域、社会とのかかわりにより生徒の目が向くような取り組みを行うことで、登下校マナーのさらなる向上に努める。
4	<ul style="list-style-type: none"> HPや説明会を通じて、本校の教育活動や生徒の活躍等の外部発信を行っている。 LINE等のSNSも駆使しながら積極的な広報活動を行い、学校説明会への動員および受験志願者数の確保に努めている。 保護者に対しては、Classiを通して情報の提供をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> HPやLINEの配信頻度、内容の充実度 学校説明会や入試説明会等募集広報活動の推進、動員状況 受験志願者数 Classiの活用状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の提供と内容の一層の充実 学校説明会、体験学習等の積極的な募集広報活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動や生徒の活躍等が内外に十分周知、理解されたか 説明会等の募集行事への動員が図られ、高い評価が得られたか。 志願者数を高水準で維持できているか。 Classiの利用状況の増加がみられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明会やHP、SNSにて本校の教育活動や生徒の活躍等の外部発信をし、受験志願者数も高水準で推移している。 Classiの活用により、学校保護者間の情報の共有が円滑にできたが、保護者からのアンケートの提出、回答状況にやや不安がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き学校内外に対しての情報発信をこまやかにしていく。 保護者に対する連絡をより分かりやすいものにし、Classi利用の喚起をしていく。 等身大の生徒の様子が見える動的なwebページやSNSを検討する。

学校関係者評価	
書面での回答	
学校関係者からの意見・要望・評価	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の積極的な活用により、場所や時間にとらわれない学習環境が実現し、生徒が自発的に学習に取り組むことで学習習慣が定着した。 一般企業などに勤務する学校外の講師による指導など、早い段階で生徒に自分の将来像を考えさせ、視野を広げる教育がなされている。進学する目的や将来を描きやすくなるため、さらに幅広い進路指導が求められる。 データ活用など、社会のニーズに合わせて専門領域を担う人材育成などの実施の検討。
	<ul style="list-style-type: none"> カナダ短期留学、「ポスターセッション」の開催、校外学習や修学旅行など数々の魅力あるプログラムを積極的に取り入れ、生徒が主体的かつ意欲的に取り組み、一人ひとりの自主性を高めることで課題への対応力を養う機会を提供している。 アクティブラーニングが定着され、学校選びの評価ポイントとなっているように感じられる。進学の先の将来を見据えた更なる活動支援に期待する。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動など、互いを尊重し多様な価値観を理解する場での活動を通して主体性、協調性が育成されている。 引き続き、学校外の一社会人としての自覚や公共マナーを守る意識を高めるモラル教育も徹底していきたい。 給食の実施など、栄養バランスの取れた食事の重要性を学校が考慮していることは非常に評価される。 今後は、SNSの使用など、事故や犯罪を未然に防ぎ、生徒を守るための指導がより重要になると思われる。
	<ul style="list-style-type: none"> Classiの効果的な活用で、学校保護者間の情報共有が円滑にできている。アンケート回答のしやすさ、画像配信など、他のツールの検討にも期待したい。 広報活動により受験者数が1万人を維持できている事は大きな成果である。SNSのさらなる活用で、ありのままの生徒、学校の“見える化”を実施し、より一層栄東の名を広めてほしい。